

分科会 16

「発達障害」×「働く」×「リカバリー」

佐野綾香

山川ひとみ

北村尚弘（働くしあわせプロジェクト）

阿部潤子（株式会社 Connecting Point）

大空美穂子（ユースキャリアセンター フラッグ）

コーディネーター： 柴田泰臣（NPO 法人 NECST）

【分科会の趣旨】

「働くことはリカバリーに役立つ」という考え方があります。

「働かなければリカバリーできない」ではなく、「働きさえすればリカバリーできる」でもない、発達障害の方が働くことでリカバリーするとはどういうことなのか。立場の異なる出演者のみなさまのお話から、そのヒントを探りました。

【当日の内容】

○ 前半：出演者のみなさまによる講演

1. 山川ひとみさん「私の近年の活動」

一般企業での勤務経験を経て、現在は音楽活動をしている山川さんのこれまでと今、そしてこれからについて。

2. 佐野綾香さん、大空美穂子さん「私の障害と仕事」

自分がやりたいと思える職種で、障害をオープンにして働いている佐野さんは「自分に合った配慮があれば仕事を長く続けられる」と話してくれました。

3. 北村尚弘さん「リカバリーに貢献する就職の考え方」

働くとは、自分の能力を使い仕事を通じて価値貢献すること。自分も他人も大切にすること。求職活動中には、自分の可能性を広げるために様々な仕事を見学して知ってほしい。

4. 阿部潤子さん「“リカバリー”の視点から考える企業への雇用支援」

人材を採用している企業も困っている！？固定観念にとらわれていると、障害のある社員の働く力を十分に引き出せないことがあります。阿部さんはそんな悩みを持つ企業を支援しています。

○ 後半：当初シンポジウムの予定でしたが、お客様からの質問が多かったのですべての時間を質疑応答に使用しました。

【お客様の声】

- ・自分のことを包み隠さず素直に話していることに感動した。一生懸命自分の気持ちを伝えていた。
- ・ありのままを受け入れる前向きな気持ちを感じた。そこに行きつくまでの葛藤も聞いてみたかった。
- ・セルフケアの発想は、明日から支援に活かせるように感じた。
- ・親としては雇用ノウハウのない企業が多いのではないかと心配していたが、本日の講演にあったような試みももっと普及してほしいと思った。
- ・当事者、企業の方、支援者など様々な立場の人の話を聞けることは、大変勉強になった。

《柴田泰臣（NPO 法人 NECST）》